

幼児の運動遊びの援助に必要な保育者の資質の要素 — 運動遊びに関する実践報告書からの検討 —

Elements of Competency of Childcare workers for Assisting Children in Exercise play
— A Study on Exercise play from the Practice Report—

堀内 亮輔 篠原 俊明 長野 康平
HORIUCHI Ryosuke SHINOHARA Toshiaki NAGANO Kohei

Abstract

In order to satisfy the exercise experience of young children, it is important for childcare workers who interact with young children on a daily basis to raise awareness of exercise play and improve their qualifications. For this purpose, it is necessary to have an index that can clearly grasp the qualities of caregivers who support children's exercise play. However, there are currently insufficient studies that examine the factors that constitute the qualities of childcare workers for supporting children's exercise play.

Therefore, in this study, in order to create an index to capture the qualities of childcare workers for supporting children's exercise play, the purpose of this study was to clarify the elements of the qualities of childcare workers for supporting children's exercise play from the perspectives of both childcare workers and researchers.

The elements of the qualities of childcare workers for supporting children's exercise play were selected from a report in Minami Alps City, Yamanashi Prefecture, summarizing the results of practical and research efforts on exercise play. The items were selected by 14 people, including 13 chief childcare workers who are members of the city's childcare content research committee and the author. As a result, 18 items consisting of five qualities were selected: "environment setting", "language hanging", "playing posture", "provision of play", and "understanding of developmental characteristics".

As a future prospect, based on the elements of the qualities selected in this study, we will create an index to capture the qualities of childcare workers for supporting children's exercise play.

要旨

幼児の運動経験を充足するためには、日常的に幼児と関わる保育者が運動遊びに関する認識を高め、資質の向上を図ることが重要である。そのためには、幼児の運動遊びを援助する保育者の資質を明確に捉えることで

きる指標が必要である。しかし、現状として、幼児の運動遊びの援助に必要な保育者の資質を構成する要素を検討した研究は不十分である。

そこで本研究では、幼児の運動遊びの援助に必要な保育者の資質を捉える指標を作成するために、保育者と研究者の双方の視点から、幼児の運動遊びの援助に必要な保育者の資質の要素を明らかにすることを目的とした。

幼児の運動遊びの援助に必要な保育者の資質の要素は、山梨県南アルプス市で運動遊びに関する実践と研究の取り組みの成果をまとめた実践報告書から項目を選定した。なお、項目の選定は、市内の保育内容研究会の委員である主任保育者13名と筆者を合わせた14名で行った。その結果、「環境設定」、「言葉掛け」、「遊ぶ姿勢」、「遊びの提供」、「発達特性の理解」の5つの資質の要素から成る18項目が選定された。

今後の展望として、本研究で選定された資質の要素を基に幼児の運動遊びの援助に必要な保育者の資質を捉える指標を作成することになる。

Keywords: nursery teacher, improving qualities, index, model projects

キーワード: 保育士, 資質向上, 指標, モデル事業

1. 緒言

スポーツ庁(2021)の体力・運動能力調査によると、子どもの体力・運動能力は1985年頃を境に低下し、現在でも低い水準で停滞していることが報告されており、幼児期においても同様の傾向がみられている(森ほか, 2010)。

このような状況の中、幼児期運動指針が策定され、幼児は様々な遊びを中心に、毎日合計60分以上楽しく体を動かすことの必要性について示されて(文部科学省, 2012)おり、保育者は、幼児が自発的に体を動かして遊ぶことができるよう援助していくことが重要といえる。しかし、保育施設の多くで、保育者以外の運動指導者によって運動が指導されており(吉田・岩崎, 2014)、その指導内容は体操やサッカー等の専門のスポーツ種目が行われている(吉田ほか, 2007)。また、こうした運動指導に力を入れている園ほど幼児の運動能力が低いことが報告されている(杉原ほか, 2010)。浅田(2018)は、保育における「指導」と「援助」の関係について、「指導」は保育者の能動的な関わりを重視し、「援助」は子どもの主体性の発揮を重視していると述べている。また、保育所保育指針(厚生労働省, 2017)による3歳以上の領域「健康」では、自分の体を十分に動かし、進んで

運動しようとすることをねらいとしていることを踏まえれば、幼児の運動場面において、大人主導で指導することよりも、子ども主体の援助をする関わり方が望ましいと考えられることから^{注1)}、幼児の運動遊びの適切な援助方法について検討していく必要がある。

吉田・岩崎(2014)は、外部の運動指導者が運動指導をする場面で、保育者は補助的な役割や傍観的な立場にすることが多く、指導内容や方法を運動指導者に全面的に任せる傾向があることから、保育者の幼児の運動に関する認識に課題があると指摘している。しかし、保育施設において日常的に幼児の運動遊びを援助しているのは保育者であることから、幼児の運動経験を保障していく際に体育を専門とする運動指導者に一任するのではなく、保育者自身が運動遊びに関する認識を高め、資質の向上を図る必要がある。

運動遊びに関する保育者の資質向上を検討した研究では、保育者の運動遊びに対する意識や研修会への参加を通じた気づきを検討した研究(堀場, 2022)、保育者の資質向上を企図して独自に開発した運動遊びに関するガイドブックを活用した取り組みを検討した研究(梶谷・藤原, 2021)、月に一度保育者への運動遊び指導に加え、夏季休業中に研修を行い、保育者の立案した運動プログラムと指導力を検討し

た研究(山下ほか, 2018)がある。これらの研究は、保育者の運動遊びに関する資質向上について、保育者の感想を基に検討し、運動遊びそのものを楽しむ視点や基本的な動きを経験することの必要性、一人一人に見合った援助をすることの必要性、環境構成等に関する保育者の意識が高まったことを報告している。一方、上山・杉村(2015)は量的な指標を用いて保育実践を捉えることで、介入による効果の検討や保育の質の向上に関する議論が行いやすいことから、今後の保育実践について量的な指標を用いて検討していく必要性を指摘している。

保育者の運動遊びに関する資質について量的に捉えた研究として、保育者の遊び志向を捉えた研究(吉田ほか, 2015)や、保育者が運動遊びを通して育みたい幼児の能力や保育者の指導観を捉えた研究(桐川ほか, 2016)、保育者が運動遊びを指導する際の指導理念を捉えた研究(柳田, 2008)がある。これらの研究は、研究者が暫定的に作成した設問によって保育者の遊びの志向性や指導観、指導理念といった運動遊びに関する考え方を量的に捉えている。他方で長野ほか(2021)は、保育者の運動遊びのリテラシーを捉える尺度作成の必要性について言及しているが、日常的に幼児の運動遊びの援助をするのが保育者であることを考えると、運動遊びの援助に関する資質を捉える指標は、考え方のみならず、実践的な知見や能力を含めて検討していく必要がある。そのため、幼児の運動遊びの援助に必要な保育者の資質を捉える指標を作成する際、実践的な視点を加えるために、保育者が協議に参加することが重要である。一方で吉田・岩崎(2014)が保育者の幼児の運動に関する認識に課題があると指摘していることを考慮すると、運動遊びに関する理論的な視点が必要であり、研究者が協議に参加することも重要といえる。また、保育者が日常的に幼児の運動遊びを援助するなかで実感している主観的な視点と、研究者が幼児の運動遊びに関する実態を明らかにするなかで捉えている客観的な視点を照合していくことが重要といえる。これらを踏まえると、幼児の運動遊びの援助に必要な保育者の資質を捉える指標は、保育者の実践の視点と研究者の理論の視点が補完し合う

形で作成していくことが望ましい。

幼児の運動遊びの援助に必要な保育者の資質を捉える指標を作成することは、保育者が幼児の運動遊びを援助する際に最低限抑えておくべき資質を把握することを可能にし、運動遊びの援助に関する認識を高め、資質向上に寄与する可能性があることから意義があるといえる。しかし、現状として、幼児の運動遊びの援助に必要な保育者の資質を構成する要素を検討した研究はみられない。

そこで本研究は、幼児の運動遊びの援助に必要な保育者の資質を捉える指標を作成するために、保育者と研究者の双方の視点から、幼児の運動遊びの援助に必要な資質の要素を明らかにすることを目的とする。

II. 方法

1. 対象および期間

幼児の運動遊びの援助に必要な保育者の資質の要素の選定は、山梨県南アルプス市の南アルプス市保育所(園)連合会及び保育内容研究会の委員によって作成された平成18年度～平成27年度までの運動遊びに関する実践報告書(以下、実践報告書)の中から、3～5歳児に関する109事例を対象とした(表1)。

南アルプス市では、平成18年度に子どもの「こころ」と「からだ」の問題を解決することを目的として、保育士によって保育内容研究会が発足され、平成19年度～平成21年度、平成25年度～平成27年度においては文部科学省の事業を活用し、平成22年度～平成24年度においては市独自の事業で「運動遊び」を中心とした実践と研究に取り組んできた。

対象とした実践報告書は、南アルプス市が継続的に取り組んできた運動遊びに関する実践と研究の成果がまとめられており、幼児の運動遊びの援助に必要な保育者の資質の要素を捉えることができると判断した。

また、幼児の運動遊びの援助に必要な保育者の資質の要素に関する項目の選定は、南アルプス市保育内容研究会の委員13名と著者を合わせた14名で実

表 1 平成18年度～平成27年度の運動遊びに関する実践報告書

年度	研究テーマ
平成18年度	～アルプスっ子の育ちを願って～地域で支え合う子育て『ふれあい』と『ふれあいまそび』
平成19年度	～アルプスっ子の育ちを願って～地域で支え合う子育て『ふれあい』と『ふれあいまそび』《実践編》いっしょにあ・そ・ぼ
平成20年度	～アルプスっ子の育ちを願って～地域で支え合う子育て『ふれあいいっぱい えがおいっぱい！』
平成21年度	～地域で支え合う子育て～『ふれあい』と『ふれあいまそび』
平成22年度	「あそびの案内人」を目指して～プレイリーダーの実践から～
平成23年度	動作に着目した遊び
平成24年度	体力向上につながる遊びの実践～楽しく遊んで体力アップ！！～
平成25年度	アルプスっ子の育ちを願って～楽しく身体を動かす遊びの実践
平成26年度	楽しく遊ぼう！！0.1.2歳児～遊べる子どもの基礎を育てよう～
平成27年度	みんなが！！プレイリーダー～0.1.2歳から広げよう～

施した。西山（2006）は多次元保育者効力感尺度を作成する際、保育実践での有用性を確保するため、現職の保育者と協働で実施するとともに、項目の妥当性を高めることを考慮して、ベテランの保育者と項目を検討している。本研究においても、幼児の運動遊びの援助に関して実践的な知見を加えるため、保育者の資質の要素の選定を保育者と協働して実施する必要がある。その際、項目の妥当性を考えれば、対象とする保育者には幼児の運動遊びに関する取組に従事した経験や運動遊びに関する実践経験等の一定の知識・経験を有していることが重要となる。そこで本研究では、実践報告書の作成に関与した者が一定の知識・経験を有するとして保育者を選出した。この条件のもと、幼児の運動遊びの援助に必要な保育者の資質を選定する保育者として、市内の各保育所13園の主任によって構成される保育内容研究会の委員13名（以下、保育研究委員）を選出した。対象者は、これまでの事業に携わってきたメンバーであることから、幼児の運動遊びの援助に関して一定の知識・経験を有していると判断した。

なお、調査は、平成29年6月～11月までの保育内容研究会内で計5回実施した。

2. 幼児の運動遊びの援助に必要な保育者の資質の要素に関する項目の選定

幼児の運動遊びの援助に必要な保育者の資質の要素に関する項目の選定は、以下の手順で実施した。なお、以下の手順は、保育研究委員の判断と協議によって実施した。

手順1：研究対象の実践報告書から、幼児の運動遊びを援助する際に必要な保育者の資質と考えられる内容を選定し、協議によって内容の意味を読み取り、項目を作成した。

手順2：作成した項目において、類似した項目には便宜的にアルファベットと通し番号を付した。

手順3：付したアルファベットごとにまとまりを作り、そのまとまりを大項目とし、大項目を表わす項目名を付与した。

実践報告書から、幼児の運動遊びを援助する際に必要な保育者の資質と考えられる内容を選定し、協議によって内容の意味を読み取る際、幼児期運動指針（文部科学省、2012）と平成25年度幼児期の運動促進に関する普及啓発事業「実践事例報告集」（文部科学省、2014）の考え方を参考に行った。幼児期運動指針や普及啓発事業は、幼児の多様な動き

の経験や楽しく体を動かす時間の確保、発達特性に応じた遊びを提供することの重要性に加え、意欲や社会性の発達、認知的な発達との関係や幼児が楽しく体を動かすために、大人にできる工夫が記されており、これらの考え方に依拠しながら、協議を行った。

項目の選定や大項目への集約、大項目名の付与に苦慮した際は、著者が加わり、保育研究委員と研究者との協議によって決定した。

表2は、対象となった実践報告書から、幼児の運動遊びの援助に必要な保育者の資質と判断した内容の一部を示している。表2を用いた場合の実際の大項目作成の手順は以下のものである。

例1では、実践報告書に示されていた「日常生活や遊びの中で自然に動きを増やすことを工夫しています」の箇所を幼児の運動遊びの援助に必要な保育者の資質に関する内容であると判断した。そして、「運動遊びを援助する保育者の資質として、技能獲得を目指した運動指導をするのではなく、日常生活や遊びの中で子ども達が多様な動きを経験できるような環境を構成していく必要性」について協議し、その意味を「子ども達が多様な動きを経験できるように環境を構成する」と解釈して項目を作成した。

また、「体育遊具や玉入れなども、いつでも使えるようにして、固定概念を払拭し、遊具を自由な発想で使って遊ぶ楽しさも味わっています。」の箇所から、「体育遊具や玉入れなどは、運動会のシーズンに使用するものという保育者の固定概念があるが、運動遊びを援助する保育者の資質として、運動会のシーズンのみならず、子ども達が日頃から主体的に遊ぶための遊具であると捉え直し、日常的に使用できるようにする必要性」について協議し、その意味を「子ども達が主体的に遊ぶために、遊具庫を開放する」と解釈して項目を作成した。

例2、例3も同様に、「丁寧にわかりやすく説明やお手本を見せる」を「子ども達が理解できるようなわかりやすい言葉を選ぶ」、「子ども達の反応を見ながら、テンポを変えていく」を「子ども達に遊びや活動を知らせる際、間を使う」、「子ども達が自分ですいたら良いのか考えられる声掛けが必要である」を「子ども達自らが考えて遊びや活動に取り組めるよう、言葉掛けの最後に？をつける」、「子どもに対しては禁止用語をなるべく使わずに、導ける言葉掛けを考えていく」を「子ども達に指示語や禁止語をなるべく使わないようにする」、「ほめることでやる気や意欲に繋げていくことが大切」を「子ども達が意欲的に

表2 幼児の運動遊びの援助に必要な保育者の資質と判断した実践報告書の内容

<p>【例1】 他にも、<u>日常生活や遊びの中で自然に動きを増やすことを工夫しています。</u> <u>体育遊具や玉入れなども、いつでも使えるようにして、固定概念を払拭し、遊具を自由な発想で遊ぶ楽しさを味わっています。</u></p>
<p>【例2】 リズム遊びをする際は、一曲ずつその都度、<u>丁寧にわかりやすく説明やお手本を見せる。</u> また、<u>子ども達の反応を見ながら、テンポを変えていく。</u></p>
<p>【例3】 <u>子ども達が自分ですいたら良いのか考えられる声掛けが必要である。</u> また、<u>子どもに対しては禁止用語をなるべく使わずに、導ける言葉掛けを考えていく。</u> さらに、<u>ほめることでやる気や意欲に繋げていくことが大切。</u></p>

遊びや活動に取り組めるよう褒める」と解釈し、項目を作成した。

次に類似している項目に、同じアルファベットを付与し、各項目に番号を振り当てた。具体的には、「(A2) 子ども達が主体的に遊ぶために、遊具庫を開放する」、「(A3) 子ども達が多様な動きを経験できるように環境を構成する」、「(B1) 子ども達が理解できるようにわかりやすい言葉を選ぶ」、「(B2) 子ども達が意欲的に遊びや活動に取り組めるよう褒める」、「(B3) 子ども達に指示語や禁止語をなるべく使わないようにする」、「(B4) 子ども達自らが考えて遊びや活動に取り組めるよう、言葉掛けの最後に？をつける」、「(D2) 子ども達に遊びや活動を知らせる際、間を使う」といった形である。

そして、アルファベット毎に項目をまとめて大項目を作成し、各大項目に項目名を付与した。例えば、Aの大項目は「環境設定」、Bの大項目は「言葉

掛け」、Dの大項目は「遊びの提供」とした。

以上の手順によって、研究対象の実践報告書から、幼児の運動遊びに必要な保育者の資質の要素に関する項目を選定し、大項目を作成した。

III. 結果

幼児の運動遊びの援助に必要な保育者の資質の要素は表3が示すように、18の項目と、それらをまとめた5つの大項目が選定された。

1つ目の大項目は、「子ども達が安心して遊べるよう遊具や園庭などの安全性を確認する」、「子ども達が主体的に遊ぶために遊具庫を開放する」、「子ども達が多様な動きを経験できるように環境を構成する」、「子ども達が毎日60分以上、体を動かして遊べるように時間を確保する」の4項目をまとめた「環境設定」が選定された。

表3 幼児の運動遊びの援助に必要な保育者の資質の要素

大項目	項目
環境設定	A1 子ども達が安心して遊べるよう、遊具や園庭などの安全性を確認する
	A2 子ども達が主体的に遊ぶために、遊具庫を開放する
	A3 子ども達が多様な動きを経験できるように環境を構成する
	A4 子ども達が毎日60分以上、体を動かして遊べるように時間を確保する
言葉掛け	B1 子ども達が理解できるようにわかりやすい言葉を選ぶ
	B2 子ども達が意欲的に遊びや活動に取り組めるよう褒める
	B3 子ども達に指示語や禁止語をなるべく使わないようにする
	B4 子ども達自らが考えて遊びや活動に取り組めるよう言葉掛けの最後に「？」をつける
遊ぶ姿勢	C1 子ども達で遊びを進めたら見守る立場になる
	C2 子ども達が成功体験を得られるような援助をする
	C3 子ども達の良い動きや面白い発想を引き出し、ほかの子にも知らせる
	C4 子ども達が楽しく体を動かせるよう一緒に遊び込む
遊びの提供	D1 子ども達に遊びや活動を知らせる際、子ども達の様子をみて計画を柔軟にする
	D2 子ども達に遊びや活動を知らせる際、「間」を使う
	D3 子ども達に遊びや活動を知らせる際、子ども達が興味関心を示すよう声の強弱や表情、表現方法を工夫する
発達特性の理解	E1 各年齢による身体運動の発達を理解する
	E2 各年齢による認知的な発達を理解する
	E3 各年齢による情緒・社会性の発達を理解する

2つ目は、「子ども達が理解できるようなわかりやすい言葉を選ぶ」、「子ども達が意欲的に遊びや活動に取り組めるよう褒める」、「子ども達に指示語や禁止語をなるべく使わないようにする」、「子ども達自らが考えて遊びや活動に取り組めるよう言葉掛けの最後に？をつける」の4項目をまとめた「言葉掛け」が選定された。

3つ目は、「子ども達で遊びを進めたら見守る立場になる」、「子ども達が成功体験を得られるような援助をする」、「子ども達の良い動きや面白い発想を引き出し、ほかの子にも知らせる」、「子ども達が楽しく体を動かせるよう一緒に遊び込む」の4項目をまとめた「遊ぶ姿勢」が選定された。

4つ目は、「子ども達に遊びや活動を知らせる際、子ども達の様子を見て計画を柔軟にする」、「子ども達に遊びや活動を知らせる際、間を使う」、「子ども達に遊びや活動を知らせる際、子ども達が興味関心を示すよう声の強弱や表情、表現方法を工夫する」の3項目をまとめた「遊びの提供」が選定された。

5つ目は、「各年齢による身体運動の発達を理解する」、

「各年齢による認知的な発達を理解する」、「各年齢による情緒・社会性の発達を理解する」の3項目をまとめた「発達特性の理解」が選定された。

IV. 考察

本研究は、幼児の運動遊びの援助に必要な保育者の資質の要素を明らかにすることを目的とした。その結果、「環境設定」、「言葉掛け」、「遊ぶ姿勢」、「遊びの提供」、「発達特性の理解」に関する5つの資質の要素（大項目）が選定された。このことから、「環境設定」、「言葉掛け」、「遊ぶ姿勢」、「遊びの提供」といった実践的な資質だけでなく、「発達特性の理解」という発達の知識に関することも、幼児の運動遊びを援助する際の資質として重要であることが示唆された。また、幼児の運動遊びに必要な保育者の実践的な資質においては、「言葉掛け」、「遊ぶ姿勢」、「遊びの提供」といった運動遊びの時間内における幼児への直接的な援助と、「環境設定」という運動遊び

の時間内外の幼児への間接的な援助に関する資質の要素が選定された。このことから、幼児の運動遊びの援助に必要な資質は、運動遊びの時間内における幼児への直接的な援助のみならず、運動遊びの時間外での準備等を含めた間接的な援助に関する資質の要素も含まれると考えられる。

本研究で選定された各要素をみると、「環境設定」に関する項目では、「子ども達が安心して遊べるよう遊具や園庭などの安全性を確認する」、「子ども達が多様な動きを経験できるように環境を構成する」、「子ども達が毎日60分以上、体を動かして遊べるように時間を確保する」等の項目が選定された。西田・野間（2020）は、幼児を対象とした運動遊びにおける安全性に配慮した指導方略として、「園庭や教室等の施設、器具・遊具等の教材の整備」のほか、「気象に応じた環境の設定」、「適時・適切・適度な休憩」、「ケガの応急処置に使用する物品等の準備」、「活動に適した服装の整正」等、12のカテゴリーを選定している。また、篠原ほか（2020）が幼児の運動能力の低下とその背景を考慮して、幼児期における身体活動は基本的な動きと身体活動量の双方から捉える必要があると指摘している。このことから、本研究で選定された「子ども達が安心して遊べるよう遊具や園庭などの安全性を確認する」、「子ども達が多様な動きを経験できるように環境を構成する」、「子ども達が毎日60分以上、体を動かして遊べるように時間を確保する」項目は、「環境設定」に関する資質の要素として適切であると考えられる。一方で気象、休息、応急処置、服装等に関する項目は、安全性を考慮する際に重要であるものの、本研究では選定されていない。また、国際的な幼児期の身体活動量のガイドラインには「1日に少なくとも60分以上の中強度の身体活動」が推奨されている（National Association for Sport and Physical Education, 2009；Canadian Physical Activity Guidelines and Canadian Sedentary Behaviour Guidelines, 2011）が、本研究では活動強度に関する項目は選定されていない。そのため、今後幼児の運動遊びの援助に必要な保育者の資質を捉える指標を作成する際、安全性に関しては、気象、休息、応急処置、服装等を含めること、身体活動に関しては、

活動強度を含め、より精査して検討していく必要がある。

「言葉掛け」に関する項目では、「子ども達が意欲的に遊びや活動に取り組めるよう褒める」、「子ども達に指示語や禁止語をなるべく使わないようにする」といった、幼児の意欲を引き出すことや非指示的な言葉掛けに関する項目が選定された。岡澤（2016）は、言葉掛けについて、ねらいにむけて間接的にリードする言葉を「非指示的」、子どもに行動させるために直接的にリードする言葉を「直接的」、賞賛・励まし・共感する言葉を「受容的」、運動が手段となっているようなねらいに向けてリードする言葉を「外発的」と4つのカテゴリーに分類し、運動遊び場面において子どもの内発的な動機づけを高める保育者の言葉掛けを検討しており、「非指示的」と「受容的」な言葉掛けが有効であることを示唆している。また、杉本・森（2022）は、保育者の褒め言葉は、幼児が受容・共感や承認からの受容感を獲得し、幼児の関係性や運動に対する内発的動機づけに影響を与えることを報告している。杉原（2014）は、幼児の運動において、内発的に動機づけられた遊びの重要性について述べている。これらの知見を踏まえると、本研究で選定された、「子ども達が意欲的に遊びや活動に取り組めるよう褒める」ことや「子ども達に指示語や禁止語をなるべく使わないようにする」といった項目は、「言葉掛け」に関する資質の要素として適切であると考えられる。また、保育者がこうした資質を高めていくことによって、幼児の内発的な動機づけを高めることも期待できる。

「遊ぶ姿勢」に関する項目では、「子ども達が成功体験を得られるような援助をする」、「子ども達の良い動きや面白い発想を引き出し、ほかの子にも知らせる」、「子ども達が楽しく体を動かせるよう一緒に遊び込む」といった項目が選定された。木戸（2020）は幼児の主体的な運動遊びを支えるために必要な保育者の役割について、①子どもや保育者自身が楽しむことのできる運動遊び、②子どもがやってみたくと思えるような環境の設定、③年上（の子）の姿を見る時間を設け楽しく体を動かす、④子ども自身が興味を持つことや子どもの気持ちを大切にする、⑤

子どもへの声かけや成功体験（経験）を大切にする、⑥子ども同士が考える時間を作ることを示しているが、本研究においても、保育者自身が楽しむことや、子どもの成功体験を得られるようにすること、子どもの発想や考えを大切にするという視点において同様の結果が得られた。このことから、「子ども達が成功体験を得られるような援助をする」、「子ども達の良い動きや面白い発想を引き出し、ほかの子にも知らせる」、「子ども達が楽しく体を動かせるよう一緒に遊び込む」といった項目は「遊びの姿勢」に関する資質の要素として適切であると考えられる。

「遊びの提供」に関する項目では、「子ども達に遊びや活動を知らせる際、子ども達の様子をみて計画を柔軟にする」、「子ども達に遊びや活動を知らせる際、間を使う」、「子ども達に遊びや活動を知らせる際、子ども達が興味関心を示すよう声の強弱や表情、表現方法を工夫する」といった計画の柔軟性や保育技術に関する項目が選定された。計画の柔軟性について、保育所保育指針（2017）には、保育の計画及び評価において、子どもに計画通り「させる」保育ではなく、子どもの状況や遊びの展開に応じて保育が柔軟に行われることが求められると明記されている。また、瀬戸口・日本遊育研究所（2005）は、計画を作成する際の留意点として、子どもたちの自発性を大切にしつつ、臨機応変にいっしょに考えながら動きを楽しめるよう、計画に柔軟性を持たせることへの重要性を主張している。保育技術に関していえば、瀬戸口・日本遊育研究所（2005）が、子どもへの伝え方について、表情の豊かさやボディランゲージ、言葉と動作の緩急強弱等を工夫する等の、保育技術に関するポイントを示している。また、石井（2010）は、幼児期の身体的な活動は、運動種目や運動技術を教え込むのではなく、幼児が主体的に身体的な活動の世界へ引き込まれていくように「やってみよう」「なってみよう」刺激を用意して、子どもが動きそのものを主体的に楽しめるよう案内していくことが重要であると述べている。昨今、日常的に身体を動かす機会が減少した子どもたちに、プレリーダーが運動の機会を提供し、その後の運動習慣の向上を図ることの重要性について指摘されている

(スポーツ庁, 2019) が、これらのことを踏まえると、保育者がプレイリーダーとなり、子どもの意欲を引き出すために、「遊びの提供」に関する資質を高めていくことは大変重要である。このことから、「子ども達に遊びや活動を知らせる際、子ども達の様子をみて計画を柔軟にする」、「子ども達に遊びや活動を知らせる際、間を使う」、「子ども達に遊びや活動を知らせる際、子ども達が興味関心を示すよう声の強弱や表情、表現方法を工夫する」といった項目は「遊びの提供」に関する資質の要素として適切であると考えられる。一方で、加藤(1993)は、こうした保育技術に関して「技術主義型管理保育」と称し、子ども達の視覚と聴覚を刺激しながら、ある行動に子どもを仕向けていく活動は、子どもの創造的な育ちを阻害し、大人や提示される価値観に対して従順な子どもが育つ可能性を指摘しているが、このことは幼児の保育時間内における運動場面においても同様の指摘として捉えられる。このことから、「遊びの提供」の資質を高めていく際、保育者主導の運動指導に陥らないよう留意し、幼児が自発的に運動遊びを楽しむための資質として捉えていく必要がある。

「発達特性」の理解に関する項目では、「各年齢による身体運動の発達を理解する」、「各年齢による認知的な発達を理解する」、「各年齢による情緒・社会性の発達を理解する」といった項目が選定された。保育所保育指針(2017)において、乳幼児は、身体・運動・情緒・認知・社会性など様々な側面が、相互に関連しながら総合的に発達していくものであることから、子どもの発達について理解し、一人一人の発達過程に応じて保育すること、子どもの個人差に十分配慮することについて明記されている。このことから、「各年齢による身体運動の発達を理解する」、「各年齢による認知的な発達を理解する」、「各年齢による情緒・社会性の発達を理解する」といった項目は、「発達特性」に関する資質の要素として適正であると考えられる。

研究の限界と今後の課題

本研究は、幼児の運動遊びの援助に必要な保育者の資質の要素を選定したものの、研究対象が一地域

の実践報告書であることから、幼児の運動遊びの援助に必要な保育者の資質の要素を全て包含するには限界がある。そのため、今後は対象地域を広げることや実践報告書のみならず、実際の運動遊び場면을観察して検討することで、本研究で得られた知見をより強固なものにする必要がある。

V. まとめ

本研究は、幼児の運動遊びの援助に必要な保育者の資質を捉える指標を作成するために、保育者と研究者による双方の視点から、幼児の運動遊びの援助に必要な保育者の資質の要素を明らかにすることを目的とした。その結果、「環境設定」、「言葉掛け」、「遊ぶ姿勢」、「遊びの提供」、「発達特性の理解」といった5つの資質の要素について18項目が選定された。

今後は、本研究の結果を基に幼児の運動遊びの援助に必要な資質を捉える指標の作成を検討していくことが重要といえる。

注

- 1) 「指導」と「援助」の関係については、両者を統一的に捉える考え方や(浅田, 2018)、「指導」の中に「援助」も内包されているという指摘もある(加藤, 1993)

参考文献

- 浅田明日香(2018) 保育における指導と援助の関係ー子どもの権利の視点からー, 愛知県立大学大学院人間発達学研究科紀要, 9, 1-8
- Canadian Physical Activity Guidelines and Canadian Sedentary Behaviour Guidelines (2011) CANADIAN 24-HOUR MOVEMENT GUIDELINES FOR CHILDREN AND YOUTH: An Integration of Physical Activity, Sedentary Behaviour, and Sleep, <https://csepguidelines.ca/>, 2022年10月31日参照
- 堀場みのり(2022) 保育者の「運動あそび」に対する考えと研修の在り方, 名古屋学院大学教職センター年報, 6, 81-88
- 石井友光(2010) 幼児の動作理解に関する言語知識

- から探る活動量及び知覚認識との相互関係, 発育発達研究, 46, 37-48
- 根谷朱美, 藤原洋子 (2021) 保育者の資質向上のための研修プログラムの開発: 学生と保育者のための運動遊びハンドブックを活用した「島根県雲南市幼稚園, 保育所 (園), 認定こども園職員研修会」を通して, 島根県立大学・島根県立大学短期大学部人間と文化, 4, 110-123
- 加藤繁美 (1993) 新保育者論①保育者と子どものいい関係 - 保育実践の教育学 -, (株) ひとなる書房, 110-114, 220-240
- 木戸貴弘 (2020) 幼児の主体的な運動遊びを支える保育者の意識と役割: テキストマイニングを活用した分析から, 初等教育, 教育と実践, 44, 83-89
- 桐川敦子, 中道直子, 内山有子 (2016) 幼稚園における運動遊び指導の課題: 幼稚園教諭及び幼児体育指導者による運動指導実態調査から, チャイルド・サイエンス, 12, 53-56
- 厚生労働省 (2017) 保育所保育指針解説書, フレーベル館
- 文部科学省 (2012) 幼児期運動指針ガイドブック～毎日楽しく体を動かすために～, 文部科学省
- 文部科学省 (2014) 平成25年度幼児期の運動促進に関する普及啓発事業「実践事例報告集」, 文部科学省
- 森司朗, 杉原隆, 吉田伊津美, 筒井清次郎, 鈴木康弘, 中本浩輝, 近藤充夫 (2010) 2008年の全国調査からみた幼児の運動能力, 体育の科学, 60, 56-66
- 長野康平, 篠原俊明, 堀内亮輔 (2021) 幼児期の運動に関するモデル事業活用地域における保育士の運動遊びの指導の伝承: 保育士の運動遊びの指導志向と指導参考資料に対する保育経験年数からの検討, 東京未来大学研究紀要, 15, 131-139
- National Association for Sport and Physical Education (2009) Active Start: A Statement of Physical Activity Guidelines for Children from Birth to Age 5, 2ndEd., Reston, VA
- 西田明史, 野間靖智 (2020) 幼児を対象とした運動遊びにおける安全面に配慮した指導方略, 永原学園西九州大学短期大学部紀要, 50, 24-30
- 西山修 (2006) 幼児の人とかかわる力を育むための多次元保育者効力感尺度の作成, 保育学研究 44 (2), 246-256
- 岡澤哲子 (2016) 運動遊び場面の保育者の言葉かけに関する保育者養成における指導上の観点について - 内発的動機づけを高めることをねらいとして -, 帝塚山大学現代生活学部紀要, 12, 57-64
- 篠原俊明, 長野康平, 中村和彦 (2020) 園庭での自由遊びにおける基本的な動きの特徴 - 身体活動量の違いによる検討 -, 日本幼少児健康教育学会誌, 6 (1), 13-22
- スポーツ庁 (2021) 「令和3年度体力・運動能力調査報告書」, https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/toukei/chousa04/tairyoku/kekka/k_detail/1421920_00005.htm, 2022年10月31日参照
- スポーツ庁 (2019) 「～遊び」によって「心」と「身体」を育てる～プレイリーダーは子供たちの“ガキ大将”! ?」 <https://sports.go.jp/tag/kids/post-18.html>, 2022年10月31日参照
- 瀬戸口清文, 日本遊育研究所 (2005) 子どもの心と体を育む運動遊びわくわくエクササイズ, 株式会社メイト, 12, 146
- 杉原隆 (2014) 遊びとしての運動の重要性, 杉原隆・河邊貴子編, 幼児期における運動発達と運動遊びの指導 - 遊びのなかで子どもは育つ -, ミネルヴァ書房, 31-44
- 杉原隆, 吉田伊津美, 森司朗, 筒井清二郎, 鈴木康弘, 中本浩輝, 近藤充夫 (2010) 幼児の運動能力と運動指導ならびに性格との関係, 体育の科学, 60, 341-347
- 杉本信, 森司朗 (2022) 保育者のほめ言葉が幼児の運動に対する内発的動機づけに影響するプロセス - 関係性欲求に着目して -, 帝京科学大学教育・教職研究, 7 (2), 73-83
- 上山瑠津子, 杉村伸一郎 (2015) 保育者による実践力の認知と保育経験および省察との関連, 教育心理学研究, 63 (4), 401-411
- 山下晋, 中村和美, 内木薫, 浅川正堂 (2018) 意欲的に体を動かして遊ぶ子どもの育成を目指して

－園内研修と家庭との連携を意識した運動遊びの
実践を通して－, 岡崎女子大学・岡崎女子短期大
学地域協働研究, 4, 121-129

柳田信也(2008) 幼稚園教師の運動遊びに関する指
導理念の調査研究, 国際学院埼玉短期大学研究
紀要, 29, 21-26

吉田伊津美, 岩崎洋子(2014) 園での運動遊び指導
と運動遊び指導に対する幼稚園教諭の認識―園で
の運動遊び指導に対する満足度と技術指導志向か
らの検討―, 発育発達研究, 64, 18-24

吉田伊津美, 森司郎, 筒井清次郎・鈴木康弘・中
本浩揮(2015) 保育者によって観察された基礎的
運動パターンと幼児の運動能力との関係, 発育発
達研究, 68, 1-9

吉田伊津美, 杉原隆, 森司郎(2007) 幼稚園におけ
る健康・体力づくりの意識と運動指導の実態, 東
京学芸大学紀要総合教育科学系, 58, 75-80